

がん研有明友の会 会報

有明の風

第66号

2025年8月10日発行



熱海海上花火大会

ごあいさつ

がん研有明友の会 会長
古畠 勝茂



この度、前渡邊明治会長の後任として就任いたしました古畠勝茂と申します。

昭和27年4月2日生まれで現在73歳です。本会には平成21年に元聖路加国際病院院長 日野原重明先生の知人で私の友人である方からがん研有明病院を紹介されて夫婦共に入会し16年が経過いたしました。

入会後は、健康管理のため当院健診センターをはじめ各担当医師のご指導をいただき元気に活動させていただいております。職務は昭和22年創業の鉄鋼一時指定商社「古賀オール株式会社」の2代目社長として父から会社を引き継ぎました。現在は中央区日本橋小伝馬町に10階建て本ビル内で、今年から会長として職務に精励すると共に約30年前から、中央区、江東区、世田谷区の警察署・消防署と連携して地域安全活動に積極的に参加、平成28年に防犯功労で藍綬褒章を受章いたしました。

その後、今年2月に渡邊会長（小学校から大学までの先輩）から退任届が本会理事会に出され検討の結果、私に新会長就任のご依頼がありました。もとより浅学非才ではありますが、両親に子供のころから「少しでも他人様（ひとさま）のお役に立つ人間になれ」と言われ続けられた私の信条として、新会長のお役をお引き受けいたした次第です。

会長として会員の皆様とご一緒に友の会を通じて、がん研有明病院の活動をしっかりとサポートしてまいりたいと思っています。

会員の皆様どうぞよろしくお願い申し上げます。

がん研有明友の会 第20回定期総会報告

令和7年度(2025) 第20回定期総会が令和7年6月27日に開催されました。当該結果につき概要をお知らせします。次第に従い、渡邊会長の挨拶に引き続き、3件の報告事項及び5件の承認事項が議事されました。会則第12条3項に基づき5件の承認事項が全て原案通り承認可決されました。議事の内容の概要は、次の通りです。



古畠勝茂新会長

①令和6年度(2024)事業報告

会報発行は例年通り年4回発行、9月の院内講演会・懇親会は新型コロナ感染症予防を考慮し今回も中止、がん研支援金寄付は6年度分100万円を贈呈、ボランティア支援室へ5万円寄付、寄付累計額は2,500万円余です。また、がん検診割引支援(218名×@3,000円)、理事会年4回、第19回定期総会開催、4委員会は会員増強推進委員会を除き随時開催。併せて、拡大委員会にて会務運営方針につき打ち合わせを実施しました。

②令和6年度(2024)決算報告

会費収入は5,738,001円、支出は5,610,596円で、収入と支出との差額127,405円は期首繰越残高に加算し、当期収支繰越残高は9,125,658円となり翌期に繰り越されました。主な支出項目は、がん研究支援金寄付100万円、広報費総額は86万6千円です。

③令和6年度(2024)監査報告

監事より、「会務執行及び収支計算につき適正である」旨、報告がありました。

④会則の一部変更について

活動の拡大及び多様化に対応する為に、会則第9条3項(副会長1名増員)、会則第12条4項(委員会の統合)の一部変更につき審議の上、原案の通り承認可決されました。

⑤令和7年度(2025)事業計画

病院の新たな感染症対策を考慮しながら引き続き活動範囲を広げていきたいと考えています。会報発行は年4回、当院主催の一般公開講座は未定。がん研支援寄付100万円・ボランティア支援5万円・がん検診割引支援継続。理事会は年4回、第20回定期総会・講演会は6/27(金)実施いたしました。また、4つの委員会は随時開催いたします。

当該事業計画案は審議の上、原案通り承認可決されました。



渡邊明治会長へ花束贈呈

⑥令和7年度(2025)収支予算

収入は総額5,840,000円で若干の増額を目標としています。支出合計は5,840,000円で収入と支出との差額はゼロ円で収支バランスを維持し、期首繰越残高9,125,658円と同額を当期収支繰越しに繰り越す予算案を策定しました。当該予算案は審議の上、原案通り承認可決されました。



佐野病院長へ寄付目録贈呈

⑦役員の選任及び組織図について(一括審議)

本会会長として長らくご尽力いただきました渡邊明治会長がご勇退されました。ここに改めて深く感謝申し上げます。なお、渡邊会長は勇退後に当会「相談役」に就任され、引き続き後進の指導にあたられます。新会長には古賀オール(株)会長の古畠勝茂が就任いたしました。また、岡部祥一理事及び岩井國立監事が本総会をもって退任されました。長らくご尽力頂き併せて感謝申し上げます。なお、他の理事・監事は留任となりました。議事終了後、渡邊会長から病院代表としてご出席の院長佐野武先生へ寄付目録贈呈を行い、佐野院長から病院を代表してお礼のご挨拶を頂きました。総会終了後に講演会を開催しました。

肺がん治療の最前線と題して、劇的に進歩している肺がん治療について呼吸器センター長西尾誠人医師にわかりやすく講演いただき、活発な質疑応答の後終了いたしました。



呼吸器センター長 西尾誠人医師

抗がん薬の開発とがんのゲノム医療 ②

がん研有明病院 顧問 ゲノム診療部部長 高橋 俊二

これから薬物療法の話になります。



代表的な薬物療法として、まずいわゆる抗がん剤（細胞障害性薬剤）があり、多くは細胞内のDNAに直接間接に作用して、DNAが複製されてがん細胞が増えることを妨げて、破壊・死滅させます。ただ、正常細胞にも大なり小なり影響がありますので、脱毛や白血球の減少、嘔気など、副作用が多いことが問題です。

最近増加している分子標的薬は細胞の増殖経路を阻害してがん組織の増殖を抑えるもので、ある程度効果予測が可能で、正常な細胞に与える影響がないわけではないですが、比較的抑えられます。ホルモン剤も分子標的薬のうちの一つで、特に性ホルモンで成長するがん、主に乳がんと前立腺がんを対象にしています。女性ホルモンあるいは男性ホルモンの働きを抑えるだけですので、副作用が比較的少ない。また、免疫チェックポイント阻害剤も分子標的薬で、がん免疫を抑えるあるいは促進する分子に結合してがん免疫を促進する薬剤と言えます。

がん薬物療法は、1946年、第2次世界大戦直後から始まりました。まず血液がんに対する抗がん剤が開発され、それで治癒する患者が認められ、いろいろな固形がんに対する薬物療法も進みました。またホルモン剤については100年以上前から精巣／卵巣摘出により前立腺がん／乳がんが改善することが報告されており、男性／女性ホルモン受容体が1960年代に発見され、その機能を抑える薬剤として、まず1970年代に女性ホルモン拮抗剤のタモキシフェンが乳癌に有効なことが報告され、現在にわたるまで種々の薬剤が開発されています。1990年代になると、分子生物学が進歩したことによって、発がんの分子標的同定、すなわちがん細胞がどのように増えるか、がんが増殖するためのシグナルはどのようなものがあるかが明らかになり、それを抑制する薬剤として分子標的薬の創薬が始まりました。2000年代になって分子標的薬の実地臨床が始まり、2010年代には、さらに分子標的免疫療法、細胞免疫療法の実地臨床が始まりました。このような感じで進んできている様に考えると分かりやすいかと思います。（表1）

（次号67号に続く）

表1 がん薬物療法の歴史

1946	血液がん(悪性リンパ腫)に対する抗がん剤の使用
1960年代	血液がん(白血病、リンパ腫)の化学療法による治癒
1970年代	固形がん(乳がん)に対する手術後補助化学療法
1980年代	固形がん(乳がん)に対するホルモン療法
1990年代	がんの分子標的同定による創薬開始
2000年代	分子標的治療の実地臨床使用
2010年代	分子標的免疫療法、細胞療法の実地臨床使用

転移性脊椎腫瘍について

がん研有明病院 整形外科 副医長 齊藤 正徳

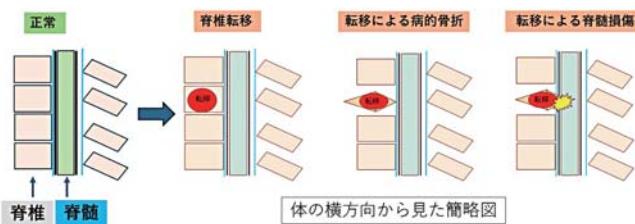
「転移」という言葉は、多くの患者さんやご家族にとって非常にショッキングな響きを持ちます。なかでも「骨への転移」、特に脊椎に広がった状態—転移性脊椎腫瘍—は、痛みやしびれ、さらには歩行困難に至る可能性もある深刻な病態です。

脊椎は、身体を支え、滑らかな動きを可能にする、人類を含む脊椎動物にとってまさに『要(かなめ)』となる構造です。その中を通る脊髄は、脳からの指令を手足に届ける神経の大幹線道路です。そこに腫瘍ができると、わずかな姿勢変化や転倒でも骨折や脊髄損傷といった重大な合併症を引き起こすことがあります。

症状として最も多いのは、強い背部や腰の痛みです。続いてしびれや筋力低下が現れ、進行すると麻痺が出現し、排尿・排便が困難になったりすることもあります。しかし、これらの症状は決して「がんが進行したから仕方がない」というものではなく、早期に対処すれば改善の可能性が十分にある症状です。



転移による脊椎障害の病態



かつて転移性脊椎腫瘍は「終末期の病態」とみなされ、放射線治療や保存的治療が主な対応とされていました。しかし、2005年に Patchell らが Lancet 誌で報告した「脊髄圧迫に対する除圧手術 + 放射線治療の有用性」を示すランダム化比較試験により、手術療法の意義が大きく見直されました。適切なタイミングでの外科的介入が、患者の機能予後や生活の質 (QOL) の改善に寄与し、生命予後の向上にもつながることが広く認識されるようになりました。

手術といっても、がんをすべて取り除くことが目的ではなく、脊椎の骨を安定させたり、神経の圧迫を軽減させたりすることが主な目的です。近年では、身体への負担を抑えた—低侵襲手術 (MIS) —も増えており、より安全に対応できる選択肢が広がっています。ただし、すべての患者さんに手術が必要なわけではありません。がんの種類や体力、予後の見通しなどを丁寧に評価した上で、「今のこの方にとって最善の選択は何か?」を多角的に判断することが大切です。複数の脊椎評価スコアや画像診断などを組み合わせ、慎重に治療方針を決定していきます。

転移性脊椎腫瘍は、「終わりの合図」ではありません。「動ける時間をどれだけ延ばせるか」「尊厳ある快適な生活をどれだけ支えられるか」—完治が難しい病態であっても、「これから的时间をどう過ごすか」を前向きに考える契機となり得ます。私たち医療者も、適切な治療介入を通して、その一助となれるよう日々努めています。

痛みや身体の不自由さを我慢せず、できるだけ早く医師や医療者に相談することが、質の高い生活を維持するひとつの鍵となります。



最新の消化器がん化学療法の展望

がん研有明病院 消化器化学療法科 副部長 篠崎 英司

ここ数年、消化器がんに対する化学療法は大きく変化しています。より個別化された治療戦略が実用化され、治療の選択肢はこれまで以上に多様化しています。



食道がんでは、緩和的化学療法に加え、手術後に免疫チェックポイント阻害薬（ICI）ニボルマブを用いる治療が広く普及しました。さらに、術前治療にICIを併用する臨床試験の成績も発表され、治癒を目指す治療戦略が再構築されつつあります。導入時期や併用薬の最適化が今後の課題です。

胃がんでは、HER2、MSI、CPS、CLDN18.2などのバイオマーカーに基づく治療選択が進み、検査結果が治療の入口となる時代に入りました。当科でも同様の治験に取り組んできましたがHER2陽性例に対して抗HER2抗体薬とICIを併用する新たな標準治療が確立されました。

大腸がんでも、RAS、BRAF、MSI、HER2などのバイオマーカーに基づく治療が標準化しています。特にMSI-H症例に対する一次治療でのICIが定着し、新たな併用療法にも期待が集まっています。また、直腸がんでは抗がん剤と放射線を用いて手術を回避する戦略が進みつつあります。再発リスクの評価として、血中のがん由来DNAの活用も始まり、当科ではこれが治療に伴う意思決定に与える影響を検討する研究を進めており、今後成果を公表する予定です。

そのような中、当院では2025年、研究所で開発された新規タンキラーゼ阻害剤RK-582を用いた大腸がんに対する第Ⅰ相治験を開始しました。RK-582は、大腸がんの多くに関わるWNT経路を標的とする全く新しい分子標的薬で、基礎研究から臨床への橋渡しとなる初の取り組みです。有明から世界へつながる創薬の第一歩として、大きな期待が寄せられています。

これらの進歩を支えるのは、患者さんやご家族の協力、そして研究への深いご理解です。当科では、最新の医学的根拠に基づいた治療を提供しつつ、患者さんと共に治療を選ぶ「共有意思決定」に力を入れています。

がん克服に向けて、今後も診療・研究の両面から全力で取り組んでまいりますので、引き続き皆さまのご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

寄稿

湯川紘恵様 プロフィール

富山県出身、岩手県と東京都で育つ。保護猫2匹と暮らしている駆け出しの指揮者。

雙葉高等学校卒業。東京藝術大学音楽学部指揮科卒業。同大学大学院音楽研究科指揮専攻修了。2021年9月よりNHK交響楽団にてパーゴ・ヤルヴィ氏のアシスタントを務め、2024年まで指揮研究員として同団の公演に携わる。2023年11月にはフェドセーエフ氏の代役を急遽務め話題を集めた。東京女子管弦楽団常任指揮者。

音との出会い

皆様はこれまでどんな音楽に出会われましたか？その音楽は皆様のどんな思い出と共にありますか？今回は私の音楽の旅の中でのマイルストーンとなった出来事について書いてみたいと思います。

音の記憶 私にとって最も古い音の記憶は母の歌声です。今でもなんだか歌を聴くとホッとするのはその記憶からなのかもしれません。

2003年8月6日の少し前 うだるような暑さの日に訪れた広島の原爆ドームの側で歌声が聴こえきました。レーベンスブルクの少年合唱団の歌声でした。曲目や内容は分からなかったけれど、この光景と声は祈りなんだと幼いながらに強く感じ日記に残しました。



2011年4月10日 3月に幼い頃住んでいた東北が震災に見舞われました。想いはあるものの何もできない自分への無力感を抱えたまま、この日ズービン・メータ指揮 NHK交響楽団のベートーヴェン《交響曲第9番》を聞きに行きました。会場にいる方々と東北への想いをシェアし音楽には素晴らしい力があり、こんな時こそ必要なのだと思い音楽を勉強しようと決心しました。

2016年藝祭 ラフマニノフの合唱交響曲《鐘》を熊本地震のあったこの年、どうしても演奏したいと思い美校、音校の仲間達に声をかけ共に創り上げた思い出深い公演です。この曲では誕生、結婚、戦い、弔いという人生の4つのシーンに象徴される鐘が描かれています。

2021年東京・春・音楽祭 リッカルド・ムーティ先生によるオーディションを経て、オペラアカデミーを受講しました。レッスンは緊張感があり厳しいものでしたが、ムーティ先生の私への言葉に凝り固まつてもがいていた自分自身の思考が開放されていく感覚がありました。ようやく私の音楽の扉の前に立てたような気がしました。



2023年NHK交響楽団11月A定期 急遽ウラジミール・フェドセーエフ先生の代役としてNHK交響楽団の定期公演でフェドセーエフ先生が編んだチャイコフスキイ《眠れる森の美女》組曲を指揮させて頂くことになりました。第二次世界大戦中にレニングラードでラジオから聞こえてきた音楽に生きる力を得たというフェドセーエフ先生の逸話を伺って、彼が編んだ《眠れる森の美女》組曲は生命への賛歌であろうと思いながら指揮台に向かいました。

2023年12月ベートーヴェン《交響曲第9番》 この曲を初めて振るチャンスがやって来ました。音楽を志した12年前を思い出し、指揮科に合格した日に買った楽譜を使いました。

「がん患者さんが歌う第九チャリティーコンサート」の記事を拝読しました。懸命に演奏する奏者の皆様、見守るお客様、開催にあたり尽力された方々の想いが集結した素晴らしい演奏会だったことでしょう。そして、この曲に込められているであろう歓喜、救い、恸哭、祈りを舞台上の演奏者と観客がまるで手を合わせ一体となった演奏会であったのだろうと思います。

この春、一人で旅をしました。旅の中で出会った音楽や風景がいつか振り返った時に私のマイルストーンになっているのかもしれません。

紙飛行機

～友の会 会員便り～

人生をやり直せるとしたら

作家の村上春樹さんがラジオ番組の中で「人生をやり直せるとしたら」という質問に対して、原典が見つからぬため正確な引用ではありませんが、「人生をやり直したいとは思わない、若い時代に味わったあの苦い経験をもう一度繰り返すのは御免です」という趣旨であったと記憶しています。

彼のコメントに同世代の私は大いに賛同したのですが、もし私の家族の人生が変えられるのであれば心変わりするかも知れません。私の母は脳腫瘍のため49歳で亡くなりましたが、当時就活中であった妹が東京のテレビ局に内定が決まったと母に伝えた日の夜に誰知らず逝きました。病状は末期のため寝たきりで視力、聴力はなく発声もできない状態でようやく決まった娘の就職を喜び逝くという母らしい最期でした。その後父は母と経営していた料理店を閉じ、26歳の私と妹は会社員として各自の人生を生きてきました。

母を亡くしたほぼ30年後の2008年1月31日父と妹を同じ日に失いました。父は70代に大腸ガンに罹り小康を得た後に妹夫婦と同居していましたが、その後認知症を発症し私が中国への駐在勤務が決まつることもあり、千葉県にある完全看護の専門病院に入院していましたが、当日朝に肺炎で亡くなりました。妹は

◆からだにやさしい食事◆

ひじきと豆サラダ

材料（2人前）

干しひじき	6 g	きゅうり	20 g
ツナ	20 g	レタス	20 g
レッドキドニー水煮	20 g	イタリアンドレッシング	30 g
大豆水煮	20 g	(ドレッシングはお好みの味をご使用ください)	

作り方

- 干しひじきは水かぬるま湯で20～30分程度戻してから、沸かした湯に入れ再沸騰するまで茹で、水を切る。
- きゅうりは2mmくらいの小口切りにする、レタスは一口大に切っておく。
- ひじき、レッドキドニー、大豆は水気をよく切り、②で切った野菜・ツナと混ぜ合わせる。
- お好みのドレッシングで和える。

友の会 会員 清水雅行

40代後半に肺ガンIV期が見つかり抗ガン剤治療等を続けていましたが副作用の肺炎で54歳の人生を終えてしまいました。私が北京で2人の訃報を受けたのは当日の朝で前触れもなく混乱した頭で翌日の成田便を予約し、妹には夫がいましたが父の方は就活で大学のある米国から帰国していた娘に千葉まで行かせ手続きを任せた次第です。

娘は希望した企業に入社が叶い、何のかんの文句を言いながらも仕事に身を入れているようですが、40歳になった今もパートナーがいないことが気がかりです。人生は1人では生きていけないと注意してもハイハイと軽くいなされてしまい、兄妹のいない娘が両親のいなくなった孤独とどう付き合って生きるのか考えてくれる機会を待ちながら、どのような形であれ妻や娘には母や妹の分まで健康で長く生きてもらいたいと願っています。



万里の長城

がん研有明病院 栄養管理部

一口メモ

ひじきはカルシウムやマグネシウムが豊富です。おかげが少ないなどタンパク質を補充したいときは、サラダに大豆などの豆類を入れることで、タンパク質を摂取することができます。

また、ひじきには食物繊維も豊富に含まれており、不足しがちな食物繊維も摂取することができます。



がん研有明友の会 現在の状況

地球温暖化のためでしょうか、以前と違い今年の梅雨も「梅雨入りしたものと思われる」との気象庁発表で始まり、じめじめした長雨の時が少なく、線状降水帯における大雨、高温の暑い日が各地で続きました。梅雨明け宣言も曖昧なまま夏に突入となってしまったように思われますが、皆様お変わりありませんでしょうか。

本友の会のことになりますが、ご覧いただいての通り今回会報のトップページは古畠勝茂新会長の挨拶文、2面に総会審議が事無く終了した旨の状況報告をあげました。ここでは会の運営の現状について、前々号にあげた業務お手伝い申し出に応えお申し出を下さった方がおられその方々を加え、新会長のもとに新たな運営体制が整いつつあること、更にはこのところ病院健診センターで入会案内配布をしていただいていることで、コンスタントな入会申し込みがあり会員維持が出来ておりますことをご報告申し上げます。会員の皆様には引き続き会活動へご支援ご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。

節気の上ではこの7日、早くも立秋を迎えましたが暑さはまだこれからです。皆様お体には十分お気をつけ下さいます様に。

有明の風 表紙の写真について

この度の写真は、がん研有明病院 病棟統括部 土井洋子様よりご提供いただきました。

「今年も暑い夏がやってきました。日々治療を続けていらっしゃる皆様、どうかご自愛ください。熱海では年間通じ、12回ほど花火があがります。お好きな季節になりましたら、熱海散歩はいかがですか?」とのコメントをいただきました。

表紙を飾る皆様からのお写真をお待ちしております。ご提供頂ける方は友の会事務局までご連絡くださいますようお願い申し上げます。

この一冊

大腸を切った人のためのやさしい食事

がん、部位別で死亡率の一番高いのはどこのがん?男性では肺がんですが女性では大腸がんが一番になっています。その大腸がんに罹り大腸を切った人のための食事について書かれたのが本書です。

昨年5月の発売ですが、著者はがん研有明病院管理栄養士沼津りえさん、監修はがん研有明病院消化器センター長、大腸外科部長福長洋介先生です。先生は大腸がん専門医で腹腔鏡を使った手術の第一人者であられます。先頃がん研有明病院を転出され、現在関西医科大学総合医療センター理事長特命教授の職に就かれています。

これまでに大腸がんの診療、治療についての著作を上梓されておられます。この度は手術後をフォローするこの一冊のご紹介です。

監修:福長 洋介
発行元:成美堂出版
発行年月:2024年5月17日
サイズ:B5 160ページ
価格:1,870円



有明友の会 入会のご案内

有明友の会は、がんで命を落とさないようにするために、がんに関する知識を深め、情報を共有し、がんに気をつけよう、がん研究の支援により、進んだ医療が受けられるようにしようということを目的にしております。

その活動は、年4回の会報発行、公開講座の開催などの他、日本で最も歴史のあるがん研究会の事業支援をしており、年会費は5,000円(個人、一口)となっております。多くの皆様のご入会をお待ちしております。

がん研有明友の会会報 発行元・事務局

〒135-8550 東京都江東区有明3-8-31 がん研有明病院内 TEL: 03(3570)0561 FAX: 03(3570)0562
HP: <http://ariaketomonokai.org> E-mail: tomonokai@jfcr.or.jp



◀友の会ホームページ